



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月14日

上場会社名 松竹 株式会社

コード番号 9601

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 尾崎 啓成

四半期報告書提出予定日 2022年1月14日

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

上場取引所 東 札 福

URL <https://www.shochiku.co.jp>

TEL 03-5550-1699

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績（2021年3月1日～2021年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	51,620	40.6	△3,552	—	△2,737	—	△3,386	—
2021年2月期第3四半期	36,723	△50.2	△3,732	—	△4,100	—	△9,827	—

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 △2,628百万円 (—%) 2021年2月期第3四半期 △9,445百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	△246.60	—
2021年2月期第3四半期	△715.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年2月期第3四半期	188,808	78,828	41.1	5,649.92
2021年2月期	191,205	80,608	41.9	5,837.84

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 77,594百万円 2021年2月期 80,183百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年2月期	—	0.00	—	—	—
2022年2月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	82,400	57.1	△5,400	—	△5,100	—	△5,100	—	△371.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 ー社 （社名）、除外 1社 （社名）K S ビルキャピタル特定目的会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期3Q	13,937,857株	2021年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	204,182株	2021年2月期	202,719株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期3Q	13,734,412株	2021年2月期3Q	13,735,735株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、世界の一部地域で感染再拡大の傾向が見られ、新たな変異株も出現するなど景気の先行きは極めて不透明な状況で推移しました。

このような状況下、当企業グループはより一層の効率化を図るとともに、本格的な事業再開に向けた環境整備に努めて参りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高51,620百万円（前年同期比40.6%増）、営業損失3,552百万円（前年同期は営業損失3,732百万円）、経常損失2,737百万円（前年同期は経常損失4,100百万円）となり、特別利益127百万円、特別損失962百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は3,386百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失9,827百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

（映像関連事業）

配給は、6月公開の「機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ」「ザ・ファブル 殺さない殺し屋」や、7月公開の「ハニーレモンソーダ」が多くのお客様に支持され大ヒットとなりました。8月には“松竹映画100周年記念作品”として2020年に公開を予定していた山田洋次監督最新作「キネマの神様」が公開となり、幅広い層の映画ファンに支持されました。11月には嵐“初”のライブ・フィルム「ARASHI Anniversary Tour 5×20 FILM “Record of Memories”」がドルビーシネマ限定の先行上映も含めて大ヒットスタートとなりました。

興行は、㈱松竹マルチプレックスシアターズにおいては、感染予防対策のガイドラインに従い、緊急事態宣言の発出時には席数を50%に制限し、お客様の体表面温度の非接触測定等、万全な新型コロナウイルス感染拡大防止策を行い営業しました。また、4月には九州初出店となる熊本ピカデリーが開業し、11月には丸の内ピカデリー1,2がリニューアルオープンいたしました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売は、堅調に推移いたしました。

C/S放送事業等は、松竹ブロードキャスティング㈱は、動画配信サービスの影響もあり、多チャンネル放送市場は厳しい状況が続いておりますが、コスト削減と視聴ニーズを捉えた番組編成により収益の確保に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は28,565百万円（前年同期比26.2%増）、セグメント損失は1,706百万円（前年同期はセグメント損失2,145百万円）となりました。

（演劇事業）

歌舞伎座は、3月から11月まで三部制興行を行いました。緊急事態宣言の発出により、「四月大歌舞伎」「五月大歌舞伎」の一部日程が中止になりましたが、感染予防対策のガイドラインを遵守し、興行を執り行うことができました。このような中、4月「勧進帳」、4月上の巻、6月下の巻に分けて上演した「桜姫東文章」、6月「日蓮」、7月「雷神不動北山櫻」、9月「東海道四谷怪談」、11月「連獅子」などが好評を博し、収益改善に貢献しました。

新橋演舞場は、3月の「未来記の番人」や6月の「熱海五郎一座」、8月の「喜劇 老後の資金がありません」、9月の「少年たち 君にこの歌を」、11月の「虎者 NINJAPAN 2021」等が好成績を収めました。4月と5月の「滝沢歌舞伎ZERO 2021」は、一部期間で公演中止となりましたが、公演中止期間中に無観客公演が生配信され、収益を上げることができました。

大阪松竹座は、3月の関西ジャニーズJr.「ANOTHER 新たなる冒険」、4月の「未来記の番人」が好評を博しました。6月のOSK日本歌劇団「レビュー夏のおどり」は、土日公演を中止し平日のみ上演しました。7月の「七月大歌舞伎」、8月の関西ジャニーズJr.公演、9月の「喜劇 老後の資金がありません」、10月の「十月花形歌舞伎 GOEMON」、11月の「松竹新喜劇錦秋公演」は予定公演を全て上演し、各々収益改善に繋がりました。

南座は、3月に「三月花形歌舞伎」、6月に「海老蔵歌舞伎」、7月に「松竹新喜劇 夏まつり特別公演」、7月と8月に「坂東玉三郎 特別舞踊公演」を上演し、収益に貢献しました。9月の「九月南座超歌舞伎」は好成績を上げ、10月の「虎者 NINJAPAN 2021」も大盛況となりました。

シネマ歌舞伎では、月イチ歌舞伎2022を第8作から11作まで上映しました。MEETライブビューイングでは、9月にアンコール上映を東劇および池袋シネリーブルにて開催いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,249百万円（前年同期比155.1%増）、セグメント損失は3,597百万円（前年同期はセグメント損失2,717百万円）となりました。

（不動産事業）

不動産賃貸では歌舞伎座タワー・築地松竹ビル（銀座松竹スクエア）・東劇ビル・新宿松竹会館（新宿ピカデリー）・有楽町センタービル（マリオン）・松竹倶楽部ビル・大船ショッピングセンター・新木場倉庫等の満室稼働により安定収益を確保し、業績悪化が著しい商業系テナントとの交渉にも誠実に対応することで新型コロナウイルス感染症の影響による賃料減額を最小限に留め、概ね計画通りの収益に貢献しました。また、長期的な収益向上策として、最大の拠点である東銀座の物件の価値を高め、将来の開発計画も見据えた街づくりの取り組みとなるエリアマネジメント活動も本格的に稼働し始めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,064百万円（前年同期比2.2%増）、セグメント利益は4,079百万円（同0.1%減）となりました。

（その他）

プログラム・キャラクター商品は、「ハニーレモンソーダ」「機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ」「るろうに剣心 最終章 The Final/The Beginning」「ARIA The CREPUSCOLO」「ARASHI Anniversary Tour 5×20 FILM “Record of Memories”」等の作品を中心に収益に貢献しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,741百万円（前年同期比240.9%増）、セグメント損失は140百万円（前年同期はセグメント損失701百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,397百万円減少し、188,808百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が増加したものの現金及び預金、仕掛品並びに「流動資産」のその他が減少したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ617百万円減少し、109,979百万円となりました。これは主に1年内返済予定の長期借入金及び「流動負債」のその他が増加したものの長期借入金が減少したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,779百万円減少し、78,828百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金及び非支配株主持分が増加したものの利益剰余金の減少等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては2021年4月14日付「2021年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,312	16,324
受取手形及び売掛金	5,434	8,086
商品及び製品	1,852	2,021
仕掛品	4,739	3,784
原材料及び貯蔵品	108	109
その他	4,888	3,490
貸倒引当金	△25	△14
流動資産合計	35,310	33,800
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	44,491	43,715
設備（純額）	11,660	11,394
土地	41,784	41,787
その他（純額）	5,441	5,172
有形固定資産合計	103,377	102,070
無形固定資産		
その他	2,327	2,058
無形固定資産合計	2,327	2,058
投資その他の資産		
投資有価証券	30,070	31,269
退職給付に係る資産	118	225
その他	20,162	19,482
貸倒引当金	△161	△98
投資その他の資産合計	50,189	50,878
固定資産合計	155,895	155,008
資産合計	191,205	188,808

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,491	6,185
短期借入金	4,281	4,431
1年内返済予定の長期借入金	9,908	17,571
未払法人税等	860	270
賞与引当金	464	182
その他	8,251	10,942
流動負債合計	29,257	39,584
固定負債		
長期借入金	61,266	50,125
役員退職慰労引当金	1,036	863
退職給付に係る負債	1,568	1,632
資産除去債務	1,394	1,477
その他	16,073	16,296
固定負債合計	81,339	70,395
負債合計	110,597	109,979
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,136	30,136
利益剰余金	10,322	6,852
自己株式	△1,470	△1,482
株主資本合計	72,006	68,524
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,450	9,365
為替換算調整勘定	△59	△57
退職給付に係る調整累計額	△213	△238
その他の包括利益累計額合計	8,176	9,069
非支配株主持分	424	1,234
純資産合計	80,608	78,828
負債純資産合計	191,205	188,808

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
売上高	36,723	51,620
売上原価	23,116	32,934
売上総利益	13,607	18,686
販売費及び一般管理費	17,339	22,238
営業損失(△)	△3,732	△3,552
営業外収益		
受取利息	4	9
受取配当金	299	314
雇用調整助成金	140	307
協力金収入	—	599
補助金収入	—	278
その他	192	241
営業外収益合計	636	1,750
営業外費用		
支払利息	463	470
借入手数料	120	147
持分法による投資損失	199	155
その他	220	162
営業外費用合計	1,004	935
経常損失(△)	△4,100	△2,737
特別利益		
持分変動利益	—	9
災害損失引当金戻入額	—	※1 117
特別利益合計	—	127
特別損失		
固定資産除却損	182	60
投資有価証券評価損	291	—
災害による損失	—	35
公演中止損失	※2 3,790	※2 526
臨時休業等による損失	※3 1,027	※3 340
特別損失合計	5,292	962
税金等調整前四半期純損失(△)	△9,392	△3,573
法人税、住民税及び事業税	196	186
過年度法人税等	—	△211
法人税等調整額	304	△26
法人税等合計	501	△51
四半期純損失(△)	△9,893	△3,521
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△65	△134
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△9,827	△3,386

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純損失(△)	△9,893	△3,521
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	553	916
為替換算調整勘定	△46	2
退職給付に係る調整額	△57	△24
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	447	893
四半期包括利益	△9,445	△2,628
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△9,380	△2,493
非支配株主に係る四半期包括利益	△65	△134

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り）

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

（四半期連結損益計算書関係）

※1．災害損失引当金戻入額

前第3四半期連結累計期間（自 2020年3月1日 至 2020年11月30日）

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年3月1日 至 2021年11月30日）

2021年2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震で被災した映画館の原状回復工事費用等のうち、前連結会計年度末の連結貸借対照表において流動負債の「その他」に計上した見積り額を取り崩したことから災害損失引当金戻入額として特別利益に計上しております。

※2．公演中止損失

前第3四半期連結累計期間（自 2020年3月1日 至 2020年11月30日）

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当社の直営劇場をはじめとする演劇公演を3月以降、中止または延期いたしました。このため当該公演にかかる製作費・人件費・地代家賃等を公演中止損失として特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年3月1日 至 2021年11月30日）

政府による緊急事態宣言の発出及び自治体からの要請に伴い、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当社の直営劇場をはじめとする演劇公演について、4月以降において一部の公演を中止いたしました。このため当該公演にかかる製作費・人件費・地代家賃等を公演中止損失として特別損失に計上しております。

※3．臨時休業等による損失

前第3四半期連結累計期間（自 2020年3月1日 至 2020年11月30日）

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当企業グループが運営する映画館をはじめとする営業施設において営業時間の短縮及び休業を実施いたしました。このため臨時休業中に発生した人件費・地代家賃・減価償却費等を臨時休業等による損失として特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年3月1日 至 2021年11月30日）

政府による緊急事態宣言の発出及び自治体からの要請に伴い、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当企業グループが運営する映画館をはじめとする営業施設において休業を実施いたしました。このため臨時休業中に発生した人件費・地代家賃・減価償却費等を臨時休業等による損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間（自 2020年3月1日 至 2020年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	22,640	4,408	8,870	804	36,723	—	36,723
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	39	111	1,524	128	1,803	△1,803	—
計	22,679	4,520	10,394	932	38,527	△1,803	36,723
セグメント利益又は 損失 (△)	△2,145	△2,717	4,083	△701	△1,481	△2,251	△3,732

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等があります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△2,251百万円には、セグメント間取引消去△162百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,088百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2021年3月1日 至 2021年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	28,565	11,249	9,064	2,741	51,620	—	51,620
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	74	107	1,615	484	2,282	△2,282	—
計	28,639	11,357	10,679	3,226	53,902	△2,282	51,620
セグメント利益又は 損失 (△)	△1,706	△3,597	4,079	△140	△1,364	△2,188	△3,552

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等があります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△2,188百万円には、セグメント間取引消去△105百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,083百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。